

## 『連結財務書類（財務4表）を作成しました』

市では、現金の収支を整理した決算書を、会計ごとに毎年作成していますが、この決算書では市全体の資産や借金がどの程度あるのかが分かりません。そこで、平成20年度決算分から新たな取り組みとして、企業会計の手法を取り入れ、三田市に係わる全ての会計を一つにまとめた連結財務書類（①貸借対照表、②行政コスト計算書、③純資産変動計算書、④資金収支計算書）を作成しましたので、その概要をお知らせします。

問い合わせ＝財政課(079-559-5018 FAX559-6877)

### ★財務書類の種類と内容

#### ①貸借対照表（バランスシート）

貸借対照表は、年度末時点の資産と、その資産をどのような財源で調達したのかを、左右に対比して整理した表です。

#### ②行政コスト計算書

行政コスト計算書は、年間の経常的な行政活動に伴うコストと、使用料・手数料などの受益者からの収入を示す表で、行政サービスに対してどれだけの受益者負担を求めているのかを示す表です。

#### ③純資産変動計算書

純資産変動計算書は、市の実質的な蓄えである純資産が、1年間にどのような要因で増減したのかを示す表です。

#### ④資金収支計算書

資金収支計算書は、現金の収支を3つの区分に分類して、1年間での現金の増減を示す表です。

### ★連結の対象

三田市の財務書類の連結対象は、一般会計、公営企業会計（病院・水道）、下水道や介護保険などの特別会計、土地開発公社、第三セクターの三田地域振興(株)などで、それぞれで作成した財務書類を合算したものが連結財務書類となります。

この資料は、連結対象である丹波少年自然の家及び兵庫県後期高齢者医療広域連合の財務4表が、作成時点（H22年1月）では公表されていなかったため、両団体の金額が含まれていません。

なお、連結財務書類（本編）には両団体の明細も掲載しています。

## ★連結財務4表の概要

### ①貸借対照表（バランスシート）

資産の部（市民の財産）		負債の部（将来世代が負担する額）	
公共資産	(1) 事業用資産 1, 249億円 (学校、庁舎、市民病院など)	固定負債	(1) 地方債など 834億円
	(2) インフラ資産 1, 332億円 (道路、公園、下水道など)		(2) 退職手当引当金 76億円
	(3) 売却可能資産 50億円	流動負債	(3) その他 17億円
投資等	(1) 投資及び出資金 23億円		(1) 翌年度償還予定の 地方債など 94億円
	(2) 基金等 215億円	(2) その他 21億円	
	(3) 貸付金・延滞債権など 18億円	負債合計 1, 042億円	
流動資産	(1) 資金 97億円	純資産の部（これまでの世代が負担した額）	
	(2) 未収金 12億円	純資産合計 1, 981億円	
	(3) その他 27億円		
資産合計 3, 023億円		負債及び純資産合計 3, 023億円	

※「地方債など」には、立替施行残高を含みます。

### ②行政コスト計算書

経常費用	(1) 人にかかるコスト（人件費など）	113億円
	(2) 物にかかるコスト（物件費、減価償却費など）	179億円
	(3) 移転支的的なコスト（社会保障給付、補助金等）	186億円
	(4) その他のコスト（支払い利息など）	36億円
a 経常費用合計		514億円
経常収益	(1) 分担金・負担金など	51億円
	(2) 保険料（国保税、介護保険料など）	36億円
	(3) 事業収益（診療報酬、水道料金など）	97億円
	(4) 使用料・手数料など	15億円
b 経常収益合計		199億円
純経常行政コスト(a-b)		315億円

### ③純資産変動計算書

19年度末 純資産残高		1, 981億円
変動内訳	純経常行政コスト	△315億円
	一般財源収入	252億円
	補助金等収入	73億円
	その他臨時損益など	△10億円
	変動額計	±0億円
20年度末 純資産残高		1, 981億円

#### ④資金収支計算書

19年度末 資金残高		121億円
増減内訳	(1) 経常的収支	66億円 (市税などの収入 — 人件費・社会保障給付などの支出)
	(2) 公共資産整備収支	△8億円 (国県補助金・地方債発行などの収入 — 公共資産整備などの支出)
	(3) 投資・財務的収支	△82億円 (基金取崩しなどの収入 — 地方債償還などの支出)
	増減額計	△24億円
20年度末 資金残高		97億円

※資金残高には、市の貯金である基金のうち、財政調整基金及び減債基金を含みます。

#### ★連結財務4表のイメージ

##### 【連結貸借対照表】

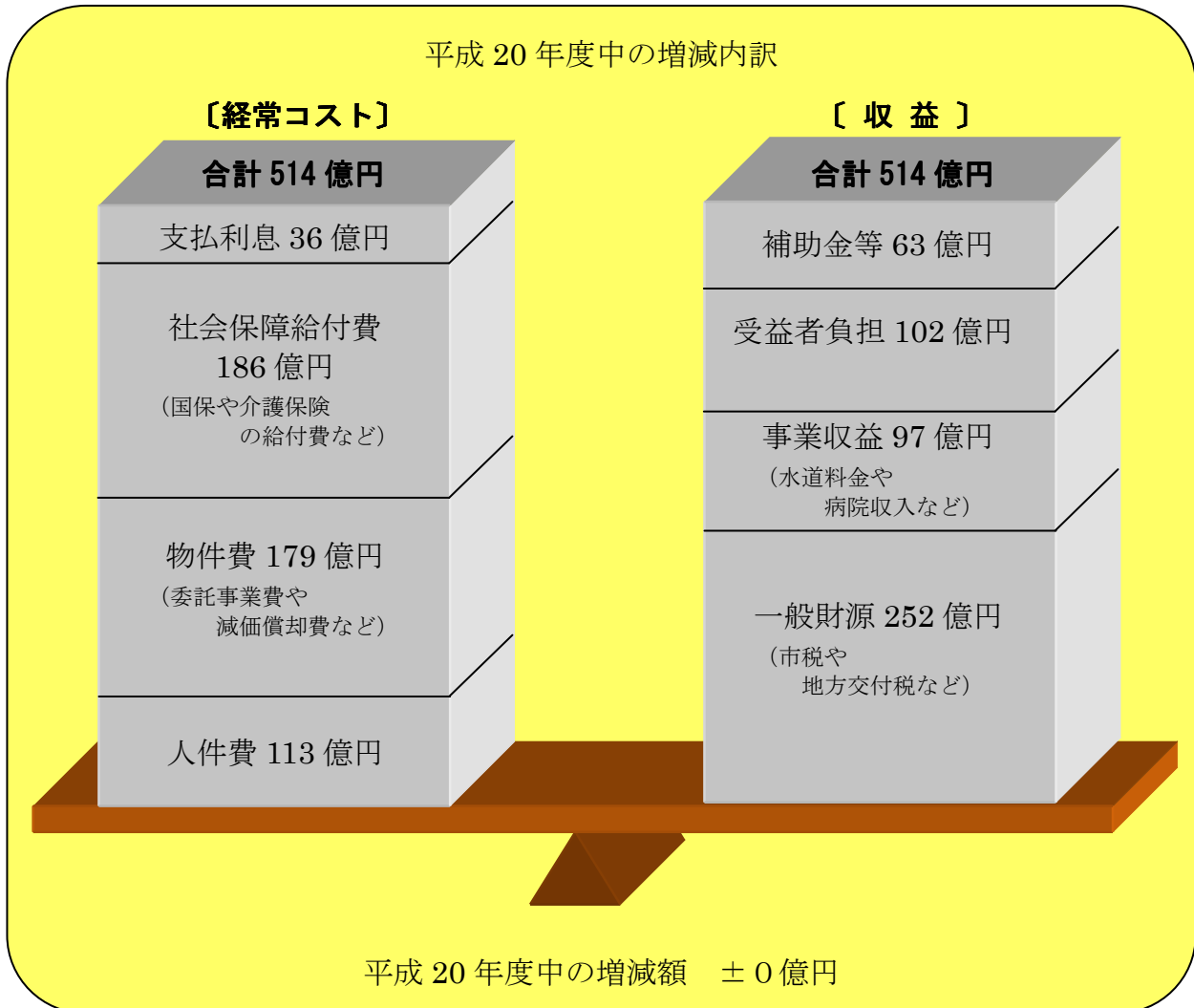


平成20年度末の市の財産総額は3023億円で、上図の四角い箱で表しています。

箱の左側には、インフラ資産や事業用資産など財産の内訳を示しています。一方、これらの財産を調達するために、これまでの世代に既に負担いただいた額と、これからの将来世代に負担いただく額を、箱の右側に示しています。

【連結行政コスト計算書・連結純資産変動計算書】

平成 19 年度末 純資産残高 1 9 8 1 億円

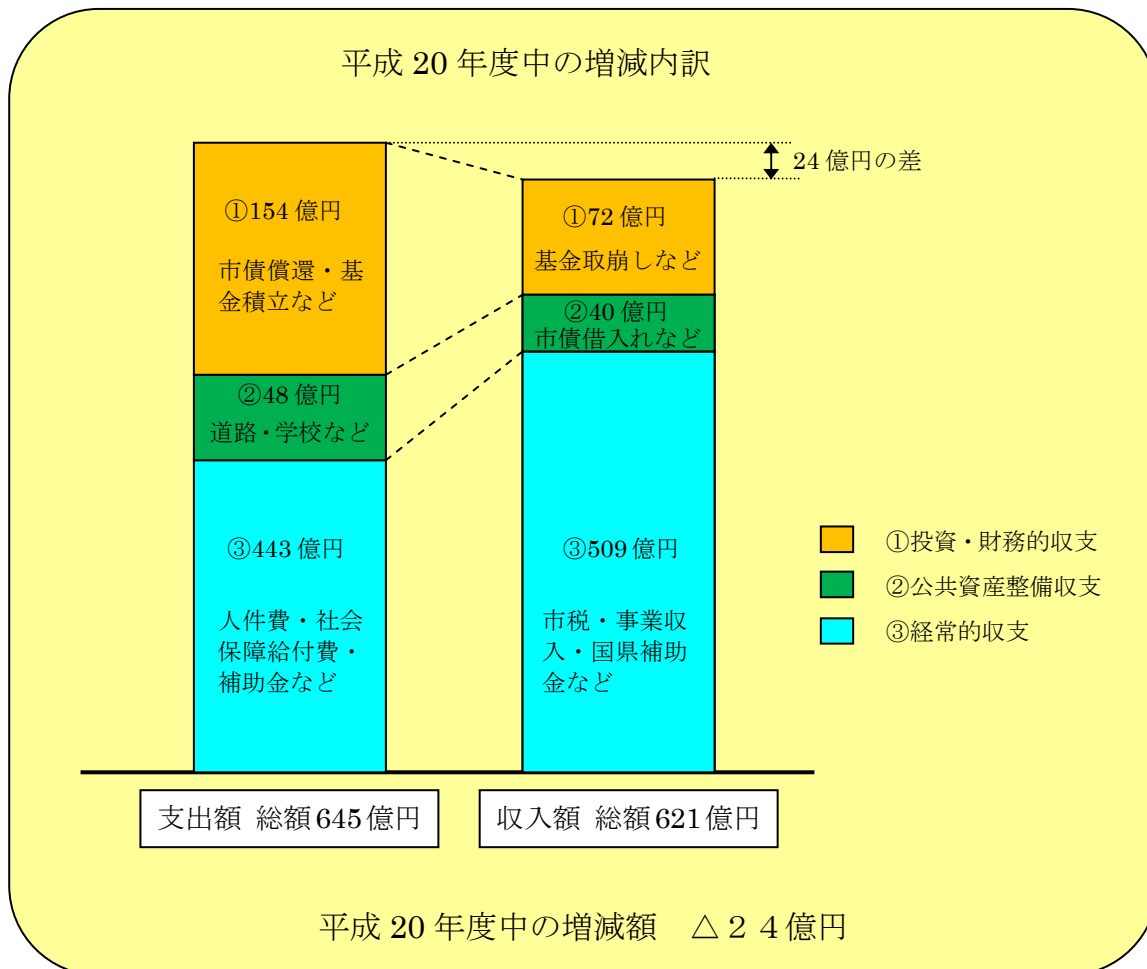


平成 20 年度末 純資産残高 1 9 8 1 億円

平成 20 年度に行政サービスの実施のために要した費用は、保険給付費や人件費など総額 514 億円かかりました。一方、収益も市税や事業収益など総額 514 億円ありました。  
この結果、経常コストと収益が同額であったため、純資産は前年度と比べて増減はなく 1981 億円となりました。

【連結資金収支計算書】

平成 19 年度末 現金残高 1 2 1 億円



平成 20 年度末 現金残高 9 7 億円

平成 20 年度末の現金は、昨年度末よりも 24 億円少なくなり、97 億円となりました。これは、人件費や社会保障給付等の支出だけでなく、将来債務の削減のために積極的に借金の返済をしたことなどにより、手元の現金が減少したことを示しています。

## 20年度の財務書類を一般家庭の家計に例えてみると・・・

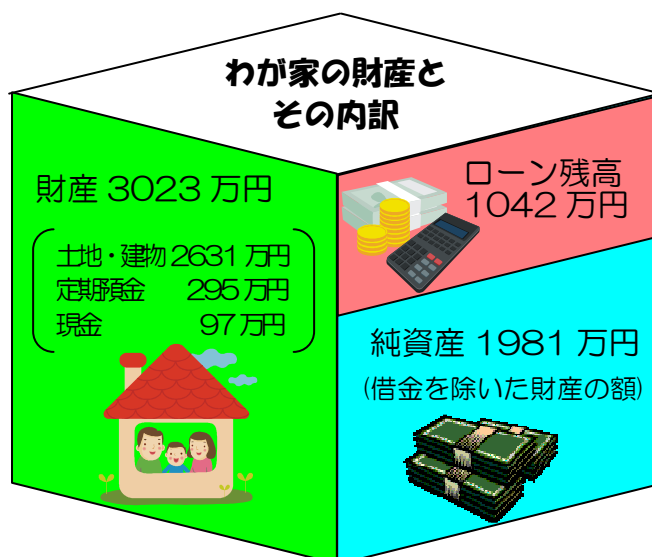
(金額の単位を、億円から万円に置き換えてみました)

### ★貸借対照表は、

自宅の土地・建物や自動車、預貯金、現金などの財産を3023万円持っていて、そのうち、住宅ローンが1042万円残っている状態に例えられます。

この住宅ローンを除いた残りの部分の1981万円を、実質的な財産という意味で純資産といい、財産全体の2/3になっています。

20年度はローンを積極的に返済し、ローン残高を減らすように努めました。



### ★行政コスト計算書は、

食費や光熱水費、医療費や子どもの学費など、日々の生活にかかる支出（コスト）が、いくらあったのかを表しており、この1年間では514万円かかったことになりましたが、生活に必要なお金は収入の範囲でまかなうことができました。

### ★純資産変動計算書は、

1年間の収入に対して、日々の生活にかかる支出（コスト）が多いと、上の図の純資産が減少し、反対に、家や自動車を購入して財産を増やしたり、ローンの返済により借金を減らすと、純資産は増加することを表しています。

なお、平成20年度は、1年間で純資産の増減はなく、1981万円のままでした。

### ★資金収支計算書は、

財布の中の現金と普通預金がどのような要因でどれだけ増減したのかを表しています。

図では財布の中の現金が、1年間で24万円少なくなっていますが、これは、今のうちに将来の家計への負担を軽くしておくために、定期預金を解約することなく、財布の現金を使ってローンの返済をしたことが、大きな要因です。

